

悲憤するよりも大切なことを

有馬 樸 (評論家)

令和元年9月号(267号)
(皇紀2679年) 毎月1日発行

新風

編集人 瀬戸 開

発行人 魚谷 哲央
年間購読料 2,000円

維新の党・新風本部
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル
第2ふじビル4階
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800
https://shimpu.jpn.org/
otayori@shimpu.jpn.org

「やめよ離騒の一悲曲 悲歌慷慨の日は去りぬ(青年日本の歌)」
悲憤するよりも大切なことを考へたい。いまこの時を、日本人たることを意識しつつ生きるには、何が大切か。二つほどお題を記す。

「戦没者追悼への無関心」
本年も八月十五日を迎へた。昭和三十八年より日比谷公会堂、靖国神社、日本武道館と場を移したが、この日は政府主催「全国戦没者追悼式」が、畏くも両陛下を仰ぎ行はれる。昭和五十七年に「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と閣議決定され、各地でも式典が行はれる。勿論筆者も御霊の前に黙祷する。

「最悪の日韓関係から見えるもの」
日韓関係が最悪の状態にある。古今東西隣国同士は仲良くない、仲良ければ合邦して一つになつてゐる筈といふ。「泣きいさち荒ぶる神は神やらひやらひて渡せありなれの川(黒龍澗人)」親韓も嫌韓もない。筆者の対朝鮮観は常に、「日本書紀」の素戔嗚尊新羅降臨と神功皇后三韓征討の両伝承を下敷きに、厳然たる安全保障上の要を説いた、内田良平大人のこの絶妙なる歌にある。

「戦没者追悼に相応しい日について、終戦数年後の世論調査では「春秋の靖国神社例大祭日」との回答が最も多かった。八月十五日は靖国神社の祭日ではない。さる研究によるとこの日は、玉音による停戦命令と、支那事変中よりお盆に行はれてゐた忠霊供養法会の実況

「戦没者の追悼は遺族感情の問題、平和は破壊や敵対を避ける現在の人々の努力の結果、繁栄は効率的な経済活動の成果であり、原因と結果の関係にない別次元の問題、だと。左翼が好んだ断言「戦死者は国家権力の犠牲者」以上に信じ難い。だが悲憤するより考へる。定型化した式辞が何十回も繰り返される間に、何が起きたのか。

「戦没者の追悼に相応しい日について、終戦数年後の世論調査では「春秋の靖国神社例大祭日」との回答が最も多かった。八月十五日は靖国神社の祭日ではない。さる研究によるとこの日は、玉音による停戦命令と、支那事変中よりお盆に行はれてゐた忠霊供養法会の実況

の二つのラヂオ放送が印象の中で重なり、占領解除後の国民側の意識に「戦没者追悼の日」として形成された、と解される。

ならば、それだけ、なのだ。この感覚が進めば、例へ我が国が攻撃され同胞が、いや家族が危害を受けても、自分の関心の選択肢さへ損なはれなければ、問題を感じない人間が現れるかも知れない。他者への共感性が喪はれてゐる。人間が共同生活を構成する上での根本的感覚の退化なのか。社会心理研究、倫理教育などの方面で対策が必要だ。

現象と一括した上で、そんな連中と私は違ふ、だから私は知的で謙虚で正しい、と言ひたげな「知識人」の多い事よ。自国優越主義を批判してゐるつもりが、いつの間にか他国の自国絶対主義に奉仕してゐた愚、スターリン批判、文化大革命前後の日本の言論人の先例を想起せよ。

「新風驟雨」
しんぶうしゅう
先参議院選挙には六党の諸派が出馬した。平成八年だつたかに公職選挙法が改正になり、平成十年の参議院選挙(維新の党・新風が初出馬)から比例代表の新聞公告の公費負担が確認団体(十名以上の立候補者)への無条件負担から得票による条件負担となつて、十以上の諸派が出馬してゐたのが半減以下となつたのであるが、それ以来の六党出馬であり、その内の二党が議席を有したのは、参議院選挙史上初のことだと思はれる。▼その六党の内訳は、宗教団体の党、現職のサヨク新党、旧左翼の党二つ、ワンイシューの党二つであつたが、当選した二党は代表者の芸能タレント性とネットユーザーのタレント性といふことが特色であらう。▼亦、六党いづれもその立候補者数の内容(比例・選挙区)からしてかなりの供託金を工面しての登場であつたが、ネットを通じての集金力が従来になく話題にもなつた。▼しかし、既成政党が緊迫する国際情勢の許での安全保障問題や国家百年の計を論戦することもなく、今だけ、自分だけ、金だけ、の国民心情に沿つた従来通りの選挙戦の中で、諸派の大部分も亦、その流れに沿つた存在でしかなかったのではないか。▼この諸派の選挙戦から、出馬はなかつた戦後体制打破の政治勢力化をめざす維新の党・新風が何を学ぶべきであらうか。

御案内

令和元年十一月十日(日)
於・キャンパスプラザ京都2Fホール

京都市下京区西洞院通塩小路下
東塩小路町九三九(JR京都駅西側すぐ)
☎〇七五―三三三―九一一―

開会式(正午)
■第一部 全国代議員総会(午後零時十五分)
本部代表選挙他 党内者のみ参加

第二部 報告会(午後一時〜二時)
(以後、党外者参加可)

第三部 記念講演(午後二時〜三時三十分)
講師 中村功 先生
(社)中小企業歴史経済研究所代表理事
演題 「少子化こそ、わが国未曾有の国難だ」

閉会式(午後三時三十分)(閉会後会場片付け)
■第四部 懇親会(午後五時)(別会場に移動)
※出席申込ハガキは新風十月号に同封
※参加費記念講演まで二千円、懇親会まで八千円

本紙目次

- 一頁: 悲憤するよりも大切なことを
- 二頁: 新風ニュース 他